

こどもの未来応援基金

令和4年度活動事業報告書

こどもの未来応援国民運動推進事務局



こどもの未来応援国民運動

も く じ

■ ご挨拶	1
■ こどもの未来応援基金について	2
■ 令和4年度 未来応援ネットワーク事業に関する活動	3
■ 令和4年度 未来応援ネットワーク事業実績報告、活動の成果	4
■ 基金の財務状況	5
令和4年度未来応援ネットワーク事業活動レポート	
① 様々な学びの支援	
■ こどもたちを社会から孤立させず、健康的な未来を育む地域チャレンジ活動を展開 (宮城県「鶴が丘一丁目町内会&仙台白百合学生応援隊」)	6
② 衣食住などの生活の支援	
■ こども・若者の居場所「いとこんち」 (北海道「さっぽろ青少年女性活動協会」)	7
③ 居場所の提供・相談支援	
■ こども宅食・こども食堂等の食支援を入口とした様々な支援 (宮城県「LALASOCIAL」)	8
④ 児童又はその保護者の就労支援	
■ 就労に関する講座を通じて、こどもたちの将来の可能性を育てる (大阪府「こもれび」)	9
⑤ 児童養護施設等の退所者等や里親又は特別養子縁組に関する支援事業	
■ 学ぶこと、楽しむこと、祝われることを平等に (東京都「きもの笑福(わふく)」)	10
■ 支援団体の方の声	11
■ 令和4年度未来応援ネットワーク事業 支援団体一覧	12
■ ご支援いただいた企業・団体	16

ご挨拶

こどもの未来応援基金にご寄付をいただいた皆様に心より感謝を申し上げます。

本基金は、平成25年6月の「子どもの貧困対策の推進に関する法律」の成立、平成26年8月の「子供の貧困対策に関する大綱」の決定を受け、こどもの貧困対策を官公民の連携・協働プロジェクトとして推進する観点から、平成27年10月に創設されました。本基金の創設以来、企業や個人から広く寄付を募り、貧困による困難を抱えるこどもたちを支える、草の根の活動を実施している団体への支援を継続しています。

昨年4月には「こども家庭庁」が発足し、12月には、こども施策に関する基本的な方針、こども施策に関する重要事項、こども施策を推進するために必要な事項について定める「こども大綱」が策定されました。こども大綱の本文では、「今この瞬間にも、貧困によって、日々の食事に困るこどもや、学習の機会や部活動・地域クラブ活動に参加する機会を十分に得られないこども、進学を諦めざるを得ないなど権利が侵害された状況で生きているこどもがいる。こどもの貧困を解消し、貧困によるこうした困難を、こどもたちが強いられることがないような社会をつくる。」とこどもの貧困対策について明記されました。

こどもの視点に立った必要な政策に取り組もうとする中、厳しい状況にあるこども達の生活の安定や学びの継続に向けて、社会全体で支援していくことは大変重要です。本基金ではこれまで、全国の団体の皆様から、「支援を得ることで、行政や地域の信頼を得ることができ、団体の活動が大きく前進しました」、「こどもたちの権利を守っていく上で、この事業は必要不可欠」といった声をお寄せいただきました。こうした声に接する中で、これからも、こどもたちを支援する環境を社会全体で支援していくための一助として、本基金の意義を改めて認識しているところです。

寄付者の皆様のご支援に改めて感謝を申し上げますとともに、お預かりした寄付金の活用成果について、本事業報告書をもってご報告いたします。

令和6年3月 こどもの未来応援国民運動推進事務局
[こども家庭庁、文部科学省、独立行政法人福祉医療機構]

「こどもの未来応援基金」について

沿革

平成27年10月、「こどもの未来応援基金」は、こどもの貧困対策に係る官公民の連携・協働プロジェクトとして創設されました。

こどもの貧困の状態を放置することにより、こどもたちの将来が閉ざされてしまうだけでなく、社会的損失にもつながることから、困難を抱えたこどもたちを支える民間の活動を支援するため、寄付金を原資とした本基金を創設し、平成28年より「未来応援ネットワーク事業」として支援金の交付を継続しています。

令和4年度の支援金の使途については、①様々な学びを支援する事業、②居場所の提供・相談支援を行う事業、③衣食住などの生活の支援を行う事業、④児童又はその保護者の就労を支援する事業、⑤児童養護施設等の退所者等や里親又は特別養子縁組の斡旋を実施又は支援する事業、⑥その他、貧困の連鎖の解消に資する事業とし、外部有識者等で構成される審査委員会において申請内容を審査の上、支援先を決定しました。

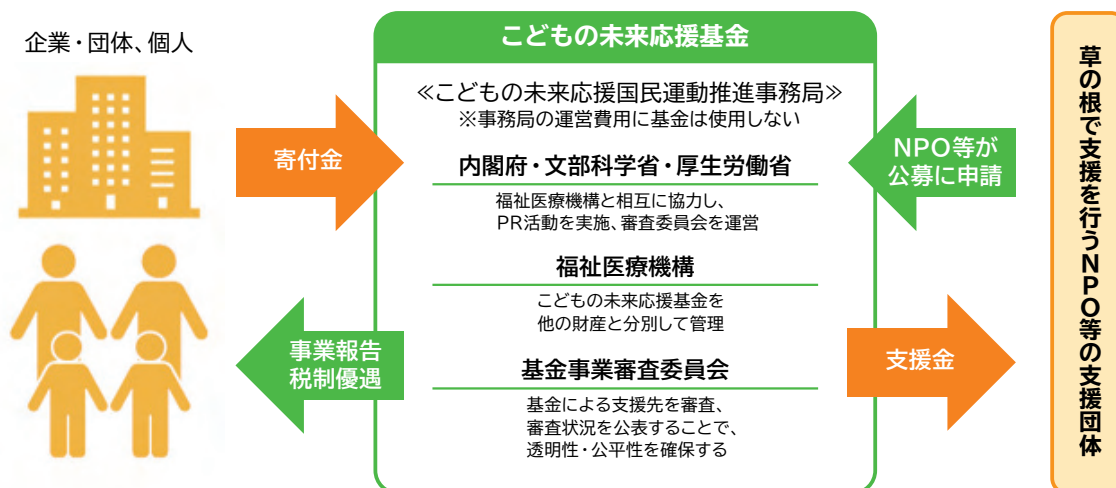
平成27年4月 **「こどもの未来応援国民運動」発起人集会**
関係閣僚や経済界、教育・福祉関係者など様々な分野から発起人が集い、民間資金による基金創設を検討することなどを決定しました。

平成27年10月 **「こどもの未来応援基金」を創設**
「こどもの未来応援基金」の寄付を募る活動を始めました。

平成28年7月～ **未来応援ネットワーク事業の公募を開始**
年1回、全国から公募し、支援団体が活動しています。

「こどもの未来応援基金」の管理・運用体制

令和4年度までの「こどもの未来応援基金」は、内閣府、文部科学省、厚生労働省、独立行政法人福祉医療機構により構成する「こどもの未来応援国民運動推進事務局」が管理・運用していました。



■「こどもの未来応援基金」事業審査委員会

「こどもの未来応援基金」により行う支援事業については、支援先となる団体を公募し、その申請内容について「こどもの未来応援基金」事業審査委員会において審査の上、決定しました。本報告書に掲載の令和4年度事業は、以下の委員に審査していただきました。

[委員]

- ◎ 草間 吉夫 宮城誠真短期大学特任教授
- 菊池 まゆみ 藤里町社会福祉協議会会長
- 小山 遊子 株式会社イトーヨーカ堂経営企画室 CSR・SDGs 推進部総括マネージャー
- 笹山 衣理 滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局子ども未来戦略室室長
- 福嶋 誠也 横浜市こども青少年局総務部長
- 宮本 みち子 放送大学名誉教授・千葉大学名誉教授
- 室田 真一 東京都立大学人文社会学部人間社会学科准教授
- 我妻 充史 キヤノンマーケティングジャパン株式会社企画本部 サステナビリティ推進部部長

(五十音順、敬称略。◎は委員長。役職は令和3年12月22日時点)

「令和4年度未来応援ネットワーク事業」に関する活動

令和3年 8月

- 「こどもの未来応援基金」事業審査委員会において「令和4年度未来応援ネットワーク事業」の実施について審議。
- 「令和4年度未来応援ネットワーク事業」による支援団体を公募。
(募集期間: 8月23日～10月4日)

令和3年 12月

- 「こどもの未来応援基金」事業審査委員会において「令和4年度未来応援ネットワーク事業」による支援対象を審査。(22日)

令和4年 1月

- 「令和4年度未来応援ネットワーク事業」による支援団体を公表。(18日)

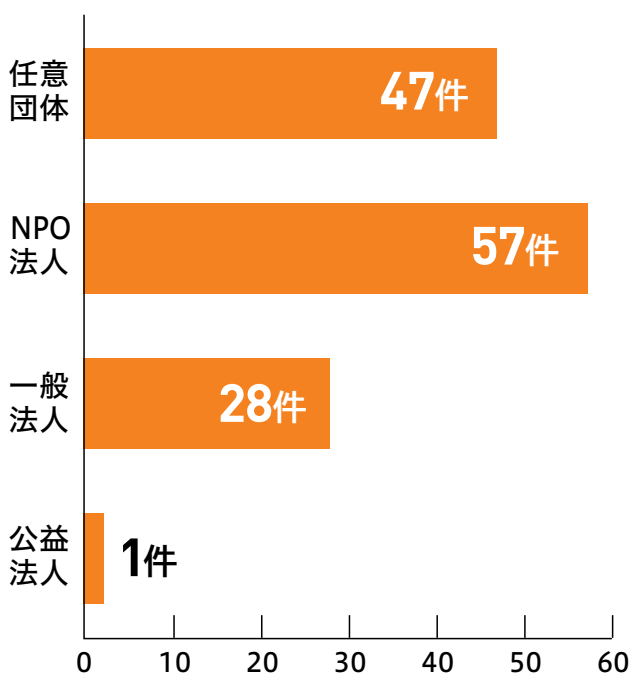
令和4年度未来応援ネットワーク事業実績報告

令和4年度は、全国の133団体に対し支援を行いました。

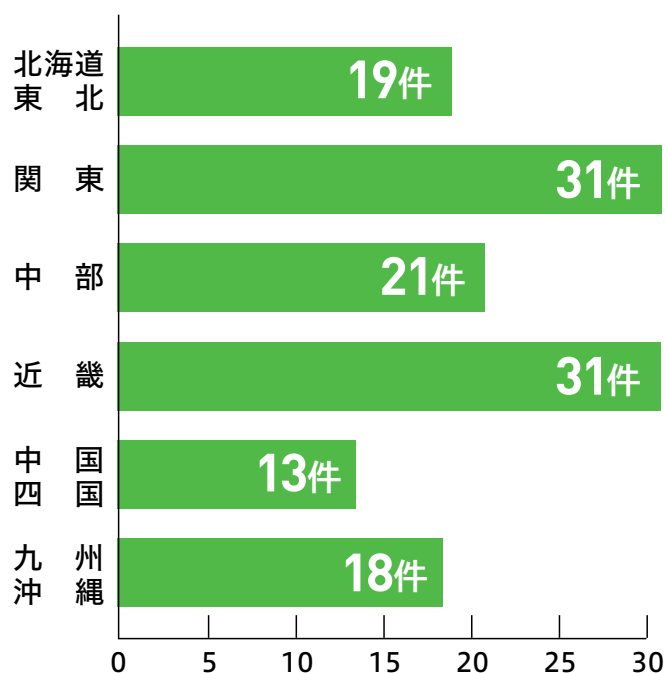
■支援件数 計133件

様々な学びを支援する事業	27件
居場所の提供・相談支援を行う事業	49件
衣食住など生活の支援を行う事業	37件
児童又はその保護者の就労を支援する事業	2件
児童養護施設等の退所者等や里親・特別養子縁組に関する支援事業	3件
その他、貧困の連鎖の解消につながる事業	15件

■支援先団体の法人区分別内訳



■支援先団体の所在地域別内訳



令和4年度活動の成果

令和4年度の活動において、**27,958名**の子ども・親子に支援を届けました。

2,484名

様々な学びの
支援

10,796名

居場所の提供
相談支援

14,465名

衣食住など
生活支援

56名

児童、保護者の
就労支援

157名

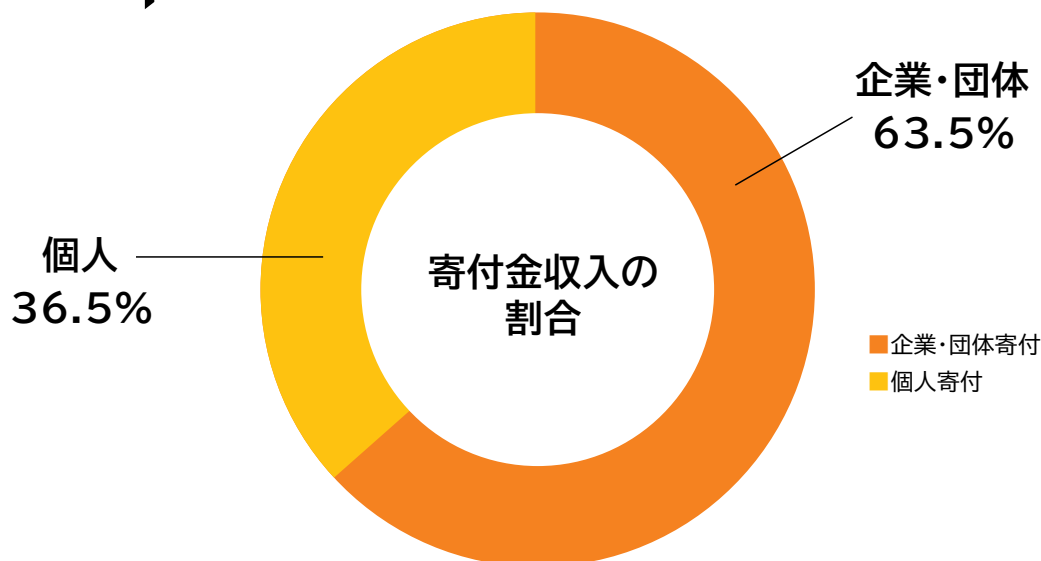
児童養護施設等の
退所者等の支援

※助成団体からの報告を単純集計したものの。

基金の財務状況

■寄付金収入 令和4年度末時点(累計)

19億452万4,620円



■寄付金支出 令和4年度末時点(累計)

13億2,384万4,000円

支援実績

事業年度	活動期間	支援実績(支援決定額)	
平成28・29年度 未来応援ネットワーク事業	平成28年10月 ～平成29年9月	86団体	3億1,600万円
平成30年度 未来応援ネットワーク事業	平成30年4月 ～平成31年3月	79団体	2億6,600万円
平成31年度(令和元年度) 未来応援ネットワーク事業	平成31年4月 ～令和2年3月	71団体	2億 800万円
令和2年度 未来応援ネットワーク事業	令和2年4月 ～令和3年3月	97団体	1億3,300万円
令和2年度 新型コロナウイルス感染拡大への 対応に伴う緊急支援	令和2年7月 ～令和3年3月	20団体	5,300万円
令和3年度 未来応援ネットワーク事業	令和3年4月 ～令和4年3月	96団体	1億4,600万円
令和4年度 未来応援ネットワーク事業	令和4年4月 ～令和5年3月	133団体	2億 200万円

1 様々な学びの支援



鶴が丘一丁目町内会&仙台白百合学生応援隊（宮城県）

こどもたちを社会から孤立させず、 健康的な未来を育む地域チャレンジ活動を展開

「鶴が丘一丁目町内会&仙台白百合学生応援隊」は、雇用環境やコロナ渦などで困窮度を増す子育て世代に手を差し伸べ、こども達の未来が閉ざされ地域社会からの孤立を招くことが無いよう、身近な町内会が学生の力を借りながらこどもの生活と健康・成長をサポートしていくことを目的として、結成されました。

共働きやひとり親の世帯など貧困化が危惧される家庭を対象に、子育て経験を持つ年配住民や兄弟世代の大学生が共に寄り添って多世代で交流できる場を設け、コミュニティ交流のチャレンジ活動を実施しました。

「お茶の間学習教室・青空交流教室・食の交流カフェ」の活動を一年を通じ継続的に開催しました。100名を超える地域住民・学生・関係機関等が集まって多世代の輪を創り、こども達の「学・遊・食」の身近なサポート活動を繰り返し、どのこども達も分け隔てなく共に成長していく「地域団欒」の環境を事業成果として創出しました。

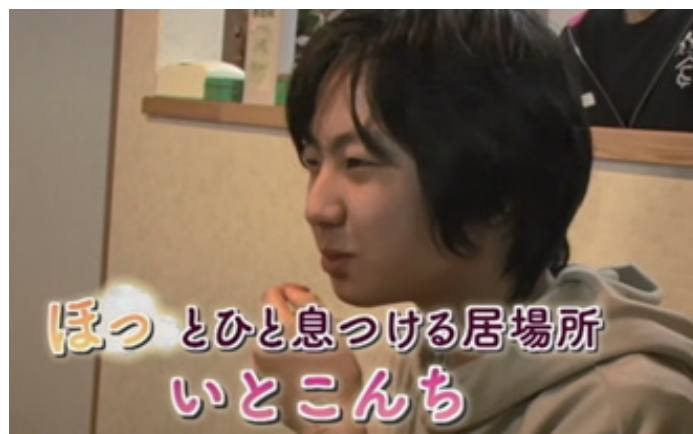
「お茶の間学習教室」は火曜・木曜の週2回、計

86回の開催が達成できました。小学校1・2年生に合わせ学習教室の開始を14時30分とし、こども達のニーズを優先させました。共働き家庭・ひとり親家庭の小学生に加え、かつて小学生として当学習教室に通っていた中学生も参加し、対象者層が広がり毎回10名、延べ20名（年間860名）に達しました。学生参加者も徐々に増えて延べ12名に達し、地域住民も含めると全体で延べ40名に及ぶ大勢の参加になりました。鶴が丘一丁目集会所と集会所に隣接する鶴が丘一丁目公園の屋外環境も活用して実施しました。

休日のこども達の交流の場として、屋外の「青空交流教室」を季節ごとの時期に合わせて開催しました。住民や学生達も参加し、花壇・畑のガーデニング活動や収穫作業の体験、四季のイベントとして春の緑の遊び広場・夏祭り縁日・秋のハロウィン&スポーツ・冬の落葉&文化の交流を繰り返し、こども達が元気いっぱい外で体を動かしながら仲間と一緒に地域で交流ができる体験活動を実施しました。

2 居場所の提供・相談支援

さっぽろ青少年女性活動協会（北海道）



こども・若者の居場所「いとこんち」

公益財団法人「さっぽろ青少年女性活動協会」は、経済的困窮や社会的孤立状態にあり、家庭機能の補完が必要なこども・若者・家族を支える場づくりを目的に、一軒家型の居場所「いとこんち」を設置しました。

学校・児童相談所・保健師・警察等の専門機関と、近隣保育園や主任児童委員等の地域の見守りの双方からの紹介を通じて、概ね13歳～19歳（児童養護施設等出身者は24歳まで、ひとり親は29歳まで）を対象に、食事や入浴、学習等が可能な家庭的な時間・空間を提供しました。中核拠点のいとこんちに加えて、サテライト5会場（札幌市中央区、北区、東区、厚別区、南区）と地域サロン型いとこんち1カ所で、延べ287回開催し、延べ676名が（この他、家族126名も）利用しました。「さっぽろ子ども・若者支援地域協議会」の指定支援機関であることから、教育委員会や母子保健福祉の行政機関等を通じて利用者紹介が多くありました。

「いとこんち」という居場所の名称だけでなく、全ての子ども・若者・家族を「親戚の家のようなところで支える」という考え方そのものが地域に浸透し、拡がりを生んでいます。近隣住民から、新たに一軒



家の提供を受けたことで、従来の「模擬親戚づきあい」に加えて、「模擬近所づきあい」のできる場が新設されました。これらの取り組みが高く評価され、令和4年度内閣府「子供と家族・若者応援団表彰」（子供・若者育成支援部門）で内閣府特命担当大臣表彰を受賞しました。

生活支援のほか、ひとり親家庭の母親を対象として、近隣保育園の協力を得てAutoCAD実践講座を行いました。講師はオンラインで指導いただき、全員が最終試験に挑むことができました。

令和4年10月には、当団体がバックアップする形で「一般社団法人ソーシャルペダゴジーネット」を新規に設立。いとこんちの運営を当団体と一般社団法人とで協働し、令和5年度からは、学費等の給付や夜間緊急対応を一般社団が担っていきます。

3 衣食住など生活の支援



LALASOCIAL (宮崎県)

こども宅食・こども食堂等の食支援を入口とした様々な支援

一般社団法人「LALASOCIAL」は、こども宅食を通してつながりが出てきた家庭(約50世帯)を対象に食や学習支援を通して支援を行いました。ひとり親世帯の中にはご飯を作ることが困難な家庭などもあることから、弁当や定食を提供しながらこどもや家庭が健康な生活を送れるようにサポートを行いました。

毎週火曜日、木曜日の夜のこども食堂と、土曜日のこども食堂を通して食のサポートを行い、延べ利用者は2,884名(こども食堂1,081名、通常利用1,803名)となりました。

こども食堂を検索して当団体のこども食堂にたどり着き、その後定期的支援に繋がるケースもありました。物価高騰により食支援の特集が全国各地で取り上げられたことにより、支援依頼が急増し時期によっては毎日弁当を求める家庭も出てきました。

当初は困窮家庭やネグレクト状態であるこどもたちを想定していましたが、ひとり親家庭が利用

の90%以上を占めました。市のHPなどで当団体のこども食堂の情報を知りご相談があり、その後に定期的な支援に繋がるケースがありました。食を通じた様々な支援が複合的にあったことにより、どの支援からスタートしても「繋がる」事ができ、様々な支援に展開できるという相乗効果がありました。

急増したひとり親の課題が多く、連携体制の構築が急務になり11月に支援団体と共に「宮崎ひとり親家庭支援ネットワーク」を設立しました。

市・県・社協・関係団体とも連携して活動を実施しました。特に利用層の抱える課題が重層化しており、課題解決の方法が多岐に渡っていたため、同時に様々な関係機関(女性センターやDV支援団体等)との連携の相談を行ったり、様々な関係課への説明や協力依頼に奔走しました。困窮・ひとり親家庭の場合、抱える課題も多くこども食堂などの食支援を通して多くの相談がありました。

4 児童またはその保護者の就労の支援

こもれび（大阪府）

就労に関する講座を通じて、
こどもたちの将来の
可能性を育てる



一般社団法人「こもれび」は、福祉・介護・教育・療育について、切れ目のない支援をすることを目標に掲げ、活動している団体です。「将来的に困窮状態となる恐れのあるこども」が、将来の目標をみつけて就労への興味をもつことを目的とした事業を実施しました。

対象となる「将来的に困窮状態となるおそれのあるこども」には、不登校等で学習意欲や進学意欲の低い状態のこども、経済的な困窮状態にあり習い事などの体験活動が不足しているこども、生活保護世帯で保護者が働いておらず就労に対するロールモデルを見てきていないこどもなどが該当します。これらのこどもたち自身の生きづらさを理解・配慮したうえで、こどもたち自身がさまざまな職種や自分の適性を知り、職業体験をすることで、夢や目標をもつことができるような講座を実施しました。

夏期講座・冬期講座として各4回（実習1回を含む）、以下の講座を開催しました。

- ①OHBYカード（カード式職業情報ツール）を使用したお仕事調べと適性診断。
- ②挨拶や報連相などの社会人マナーやお金の貯

め方・使い方を学ぶ。

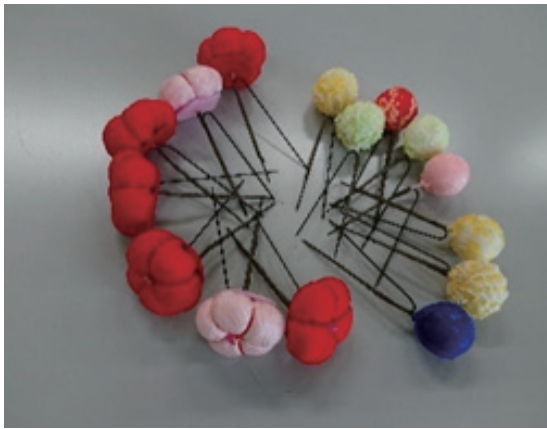
- ③こどもたちが興味を持った職種の職場実習を体験。
- ④全体の振り返り及び実習先へのお礼状を作成。

【職場実習の内容】

- カフェ：ドリンク作成や接客体験
- 保育園：絵本を一緒に読むなどこどもたちとのふれあい体験
- 自動車工場：点検・整備、洗車などの体験
- 図書館：図書の並べ方、読み聞かせコーナーの準備体験
- プログラマー：プログラマーへのインタビューやプログラミング体験

参加したこどもたちからは、「新しい職種を知ることができた」「講座や実習で褒められることが多く、嬉しかった」という声が寄せられました。職場実習では、地域の方々が社会とつながりにくいこどもたちの状況を知るだけでなく、実際に接することでこどもたちの可能性を感じ、継続的に地域で見守りを行うきっかけをつくることができました。

5 児童養護施設等の退所者等や 里親・特別養子縁組に関する支援



きもの笑福(東京都)

学ぶこと、楽しむこと、
祝われることを平等に

NPO法人「きもの笑福(わふく)」は、貧困による教育の格差をなくしたいという思いから、貧困家庭の子どもなどを対象に、日本文化の一つである着物の着付けやヘアメイクを七五三や成人式の際に無料で行っています。

児童養護施設ですごした子どもたちは着物を一生に一度の七五三や成人式でさえ着られずに大人になっている方がいます。貧困の差別をなくし子どもたちの人格形成の一助となる文化教育活動することを目的として、児童養護施設等の子どもたちを対象に、きものの準備からお貸しだし、ヘアセット、着付けと写真撮影を全て無償で行いました。ご本人と関わってこられた施設の方々の想いをアルバムにして、思い出に残る写真をお贈りしました。

コロナウイルスの影響がある中でも、弊団体の支援を受けたいという施設が増えました。児童養護施設同士での紹介や社協からの依頼の増加や、同じ施設による複数回のご利用、母子生活支援施設等、新たな支援活動の幅が広がりました。その他、徳島のこどもの居場所ジュニアクラブ蔵本からの依頼は、様々な業者へ掛け合ったが断られたとの

ことから、弊団体HPにたどり着いて依頼に至るケースもありました。6月～3月まで30施設32回実施、目標人数は大幅に超え延べ93名の方にご利用いただきました。

東京都市民活動支援センターからの依頼や児童養護施設からの紹介は、施設側との信頼関係を築きやすく安心感につながりました。また調布市社会福祉協議会、武蔵野市社会福祉協議会との関係によりボランティアも増えました。

調布市ボランティア市民活動支援センターの応援によるサマーボランティア企画では、近隣の学校から中学生や高校生のボランティアが集まり、活動で使用する髪飾りを作成しました。

子どもからは「夢がかなった」、施設職員からは「お祝いでできて嬉しい」「卒業した子が晴れ着体験を機に、施設に悩み相談に来てくれるようになった」「笑福さんのお力は、人を変える力があると感じた」などの声が寄せられました。

晴れ着を着る機会を通して、より多くの子どもに生きる希望や喜びと活力を届けることを目標に取り組んでいきます。

支援団体の方の声

「こどもの未来応援基金」による支援を受けた団体の活動により、こどもたちやそのご家庭に様々な変化が現れています。支援団体の方からよせられた声の一部をご紹介します。

- 「家でもこどもの勉強意欲が出てきました。勉強が面白いと言っています。」
- 保護者の方が、「学びの場に来て、こどもも落ち着き、保護者も気軽に相談ができる。」と喜んでくださいました。
(学習支援団体からよせられた保護者の声)

- こども食堂の日を心待ちにしてくれているようで、異年齢で鬼ごっこやかくれんぼなど集団あそびを楽しそうに行っている様子が見られます。
- 中学校を卒業したこどもが、「高校生になってからも利用したい。」と希望したり、保護者として参加されていた方が、スタッフとしての参加を希望されるようになりました。
(居場所の提供・相談支援団体からよせられた声)

- 食品支援によって何とか生き延びることができるという声、うれしくて生きていく気力がわいたという声、お菓子をこどもに食べさせることができこどもに笑顔が見られたという声がアンケートを通じて届きました。
(食品支援を行う団体からよせられた声)

- 「制服は金額が高く、こどもの成長に合わせて買い替えができなかったのが、非常に助かりました。おかげで、こどもの喜ぶ顔を見ることができました。」
(制服等の提供支援を行う団体からよせられた保護者の声)

- こども食堂を行った事で、ひとり親家庭同志が家族のような繋がりを持ち始め、様々な悩みを共有できるようになりました。
- 居場所を常設にしたことで、家で孤立していたひとり親家庭が気軽に遊びに来られるようになり、次第に元気になりました。結果、支援を受けていたシングルマザーが支援をする側(ボランティア)に回る事も増え、社会参加へと繋がりました。
(居場所の提供や衣食住など生活の支援を行う団体からよせられた声)

- (活動を通じて)「これまで関わったことがない人たちに多く繋がることのできた。一番得をしたのは自分だと思う。」とヤングケアラー当事者から感想をいただきました。
(ヤングケアラー支援等を行う団体からよせられた声)

令和4年度未来応援ネットワーク事業 支援団体一覧

- ① 様々な学びを支援する事業
- ② 居場所の提供・相談支援を行う事業
- ③ 衣食住など生活の支援を行う事業
- ④ 児童又はその保護者の就労を支援する事業
- ⑤ 児童養護施設等の退所者等や里親・特別養子縁組に関する支援事業
- ⑥ その他、貧困の連鎖の解消につながる事業

(※支援金額：採択決定時の金額)

都道府県	団体名	類型	事業名	支援金額 (千円)
北海道	ゆめみ〜	①	子ども食堂における学習支援体制の整備と他の子ども食堂への支援事業	2,752
	麻生キッチンりあん	①	季節行事を生かした食育を中心とした青少年育成事業	2,949
	さっぽろ青少年女性活動協会	②	子ども・若者の居場所「いとこんち」事業	2,953
	陽だまりの家	②	福祉と心理の専門職が子どもの安心と未来を支える子どもの居場所事業	3,000
	とかちイベントー協会	①	みんなで体験ワークショップ事業	300
	NPOボラギヤング	②	親子の孤立と困窮を支える食と居場所の構築事業	1,000
	わたわた食堂	③	子ども食堂ならびに学びの事業	1,000
宮城県	鶴が丘一丁目町内会&仙台白百合学生応援隊	①	貧困解消のコミュニティ・チャレンジ「地域団楽」事業	3,000
	やっべす	②	こども達が選べる!安心な居場所と学びの場プロジェクト事業	3,000
	ほっぶすてっぷ	⑤	親の支援を受けられない子ども・若者の自立支援事業	3,000
	ワタマスマイル	⑥	困難を抱えた子どもたちへの食支援と学習支援および相談ケア事業	3,000
	おりぎの家	③	手作りお弁当とフードパントリーによる生活困窮世帯への支援事業	1,000
秋田県	秋田たすけあいネットあゆむ	②	子ども支援ワンストップ強化事業	3,000
	ここはぐ	②	母子・父子のケアサポート事業	3,000
	幸せサポートいろどり	③	家庭環境の差を縮める楽しい食と楽しい居場所の支援事業	903
福島県	Bridge for Fukushima	①	こども農園事業	854
	福島就労支援センター	①	コロナ禍の中で貧困を抱える子どもたちへの学習支援事業	300
	寺子屋キッズ21・しゅくだいカフェ	②	大人が見守る安全・安心な居場所できゅくだいを頑張ろう! 事業	1,000
	ふどんの	③	感染予防に配慮した弁当の配布とオンライン学習の場の提供事業	300
茨城県	キドックス	②	アニマルセラピー効果を活用した子どもの安心できる居場所づくり事業	3,000
	茨城YMCA	②	子ども子育て総合相談支援事業	2,992
栃木県	風車	③	楽しく美味しく笑顔あふれるふれあい食堂事業	1,000
群馬県	こども支援団体「みんなのおうえん団」	①	小中学生向け食事支援、学習支援事業	300
埼玉県	カイロス	②	「ただいまの家」事業	1,000
	つばきのわ	③	つばきのわの子ども弁当、お祝い支援事業	1,000
	十文字学園女子大学生活環境研究所	③	子育て応援フードパントリー事業	1,000
千葉県	ウィーズ	①	貧困家庭の子供の生きる力を育む学びと体験の機会を創出する事業	2,524
	子どもの環境を守る会Jワールド	②	子どもの将来と希望を発見し、自立した大人として社会に送り出す事業	2,996
	せんなり村	⑥	地域の人と人とのつながりや関わりを大切に、心と体を元気にする交流拠点事業	1,000

都道府県	団体名	類型	事業名	支援金額 (千円)
東京都	なにかし堂	②	商店街を基盤にした子どもの心の貧困及び体験格差解消の場づくり事業	2,770
	子どもへのまなざし	②	子どもが主人公の居場所「フリースペース」事業	3,000
	3keys	③	安心安全な「手作り料理」の提供を通じた10代の若者居場所支援事業	3,000
	コミュニティー・レストラン「木々」	③	食と学びの場で、すべての子どもの健やかな育ちを支援する事業	3,000
	きもの笑福	⑤	児童養護施設で過ごした子供たちへ七五三・成人振袖支援プロジェクト事業	3,000
	英会話同好会fromOTA	①	学習と生きる力の支援により学習意欲を高め進学を支援する事業	361
	Aitie	①	地域交流・多世代交流を活用した教育格差改善事業	300
	Kid's Garden	①	こども食堂「やずびょんち」事業	983
	ウーマンライフパートナー	①	安心して充実した生活を送るための生きる力を育むお金の講座事業	273
	メタノイア	①	言葉の学びを核とした外国にルーツをもつ家庭まるごと支援事業	591
	文化学習協同ネットワーク	①	三鷹中央学園地区勉強会事業	516
	あじさいの集い富士見	②	食や交流をとおして子どもの未来がひらけるためのサポート活動事業	1,000
	フードバンク調布	③	調布市内の生活困窮家庭の子ども達への食糧支援事業	1,000
	NPOさくら彩	③	子どものミールプアケア事業	1,000
	せたがやこどもフードパントリー 実行委員会	③	食を通じたアウトリーチ支援事業	1,000
ポセイドン&チルドレン協会	③	大田区在住の貧困家庭への食糧支援事業	1,000	
神奈川県	なんとかなる	⑥	帰住先のない子供の自立を支援する事業	2,835
	ユナイテッドかながわ	⑥	地域こども支援プロジェクト事業	2,431
	Omoshiro	②	精神疾患を抱える親と暮らすヤングケアラーのこどもたちの居場所事業	1,000
	まちのかげ	③	子ども無料お弁当配布(思いやり弁当)事業	1,000
	湘南まぜこぜ計画	⑥	子どもを笑顔に! 未来食堂が届ける子ども弁当&学生による寺子屋事業	766
山梨県	bond place	⑥	ヤングケアラー支え合いネット強化事業	2,928
	WakuWakuの家	②	山梨市に子どもを中心とした居場所づくり事業	1,000
	山梨の子どもたちを支援する会 ル・ブーケ	⑤	児童養護施設卒園生へ食品支援拡大事業	1,000
	甲斐市ひとり親支援 コスモスの会	⑥	地域でのひとり親や生活困窮世帯の支援事業	300
長野県	NPOホットライン信州	③	子どもと家庭への生活支援物資の受理～宅配ネットワーク事業	2,943
	特定非営利活動 子ども・若者STEPハウス	②	コロナ禍の家族の貧困下における子ども・若者の自立支援事業	1,000
	末広プロジェクト	②	みんなの居場所(学習支援、食事支援、あそび支援)事業	860
	諏訪圏域子ども応援プラットフォーム	⑥	寄付食材の分配・配布ネットワークシステムの構築事業	1,000
新潟県	フードバンクしばた	⑥	こどものいる家庭への包括的支援事業	3,000
	子どもみらい食堂	③	子どもみらい食堂事業	1,000
	フードバンクむらかみ	③	生活に困窮する子育て家庭に食料品等を届けて支援する事業	295
石川県	NPO制服バンク石川	③	制服で困る子どもに「制服バンク」から無償提供事業	1,000
	笑顔のこども食堂ネットワーク —GOHAN—	③	子どもの居場所の確保と夢をあきらめない学習指導事業	1,000

都道府県	団体名	類型	事業名	支援金額 (千円)	
岐阜県	教育・地域交流機構	①	経済的困難世帯の子供の学習機会均等化事業	2,122	
	みんなで子育てドロップス	③	田んぼと畑と台所を土台とした子育てフードパントリー2022事業	2,688	
	地域たすけあいの会	③	食を通じた地域の居場所づくり事業	300	
静岡県	しまだつながり研究所	②	Let's play&study!! 駄菓子屋はつくらんど事業	276	
愛知県	愛知夜間中学を語る会	①	自主夜間中学の教室活動を通して貧困家庭や外国籍の子どもたちの多様な学びに応える事業	300	
	つながり探究所	②	つなしょでつながりを持ち、子ども時代を心豊かに育ちあう事業	1,000	
	はぐくみ	③	こども食堂／学習支援／食料支援事業	1,000	
	町方ふれあい子ども食堂	③	ひとり親家庭食材等宅配支援事業	1,000	
滋賀県	Take-Liaison	②	子どもの貧困にかかわる生活学習支援と居場所づくり事業	1,000	
	ボランティアグループ「たんぼぼ」	②	夜の子どもの居場所「フリースペース」事業	300	
京都府	京都丹波・丹後ネットワーク	①	子どものためのブックパントリー及び絵本のある場づくり事業	969	
	京都マザーグースの会	②	子育て親子の居場所づくり事業	1,000	
	子育て支援団体「ママキラ☆プロジェクト」	②	ヤングケアラー居場所プロジェクト事業	300	
	お客様がいらっしゃいました.	⑥	生理の貧困解消に向けた事業	300	
大阪府	あっとすくーる	②	大阪府箕面市で暮らす経済的困窮家庭の中高生の居場所支援事業	2,757	
	とよなかESDネットワーク	②	生きるために必要なことを学ぶ「みんなのなりわい塾」事業	2,538	
	輝	②	ほっとな居場所でマナビング事業	2,130	
	浪速地域・地域活動協議会	②	子どもの居場所づくり・子ども見守り支援事業	2,867	
	CPAO	③	親子丸ごと子育てサポート事業	3,000	
	シンママ大阪応援団	⑥	コロナ禍で困窮したシングルマザーへのワークサポート事業	2,920	
	KADOMA中学生勉強会	①	門真の子どもたちがどんな環境に生まれても学べる「居場所」を事業	1,000	
	イコルバ! 学生会	①	小・中・高生向けの学習支援事業	1,000	
	つながるいのち	①	食育を中心とした子供の居場所づくり一畑・調理体験と自習室事業	174	
	ひとことつむぐ	②	～だれでもおったらええやん!～Yosugaで紡ぐ縁事業	1,000	
	J-Love こども食堂	②	こども食堂事業	300	
	Orange House	②	子ども・子育て支援事業	384	
	TRANSIT	②	子ども農園&子ども食堂事業	1,000	
	はっちぼっち	②	長期休み子ども居場所 いっしょに学ぼう☆食べよう☆遊ぼう事業	1,000	
	東深井つどいば食堂『ふらっと』	②	こどもの学習支援／地域の集い場作りと子育て親子の地域相談窓口事業	1,000	
	ひいらぎの花	③	こども食堂事業	190	
	子どもネットワーク・ワルツ	③	食事の支援が必要な家庭の子どもたちのための生鮮食材配布事業	1,000	
	こもれび	④	子どもと社会架け橋事業	934	
	兵庫県	東灘地域助け合いネットワーク	②	互助・共助・公助でつながる子ども相談窓口設置事業	3,000
		神戸市職員有志	①	経済的事情や発達障害、不登校等の中学生への無料学習支援事業	1,000
丹波篠山の子どもの食と健康を考える会		③	応援を必要としている世帯への弁当お届け2022事業	1,000	
奈良県	せいじゅんたすけあいこども食堂	②	連携と広報による地域アウトリーチ型の居場所の提供と見守り相談支援事業	2,600	
	ふしみい	②	子育て世帯をメインに、地域の集いの場所を提供する事業	300	

都道府県	団体名	類型	事業名	支援金額 (千円)
和歌山県	はしっ子えがおサポート	②	子どもたちの自信を支え、夢や希望を応援する事業	1,000
	子どもの生活支援ネットワーク こ・はうす	②	子どもたちの夜の居場所拡充事業	1,000
岡山県	CAPプロジェクトおかやま	②	コロナ禍におけるDVや虐待等により、住宅等をなくした貧困家庭や心身に傷つきのある人への支援事業	621
	子どもソーシャルワークセンターつばさ	③	小学生・中学生に対する朝食提供事業	806
広島県	こどもステーション	②	ひとり親家庭の貧困を連鎖させないための子どもと親の力を高める事業	3,000
	マール村	①	マール寺子屋事業	300
香川県	もも	②	子ども若者が安心して力を発揮するための包括的支援事業	3,000
	メタセコイヤの家	②	メタセコイヤの家の活動事業	1,000
	小豆島子ども・若者支援機構	④	持続可能な地域社会に向けた子ども若者とその家族の社会参加応援事業	1,000
	ひとり親パートナーズ	⑥	ひとり親家庭やプレシングル家庭等への食品配布・親育ち子育て講座事業	1,000
山口県	キッズラップ	①	eスポーツを社会への扉に～子どもの未来を拓くきっかけ作り～事業	1,000
	川中れんげホーム	②	子どもの居場所を提供することを目的とする事業	300
	異世代交流子育てサロン as is	③	鹿野ふらっと食堂・フードパントリー・宅食事業	300
愛媛県	Eince 子供応援隊	①	緊急対策「コロナ禍における子育て困窮世帯の連携支援」事業	3,000
高知県	こども食堂かもだ実行委員会	③	こどもを養育する生活困難家庭に見守りを兼ねた配食支援事業	300
福岡県	あーすちやれんじやー	③	ココプレイス 子育て支援事業	2,379
	ふくおか子ども食堂ネットワーク	③	地域で子どもを守る！ふくおか子ども食堂ネットワークの基盤整備事業	3,000
	Smile ネットワーク北九州	⑥	貧困家庭に寄り添う無料学習塾と生理の貧困対応の出張パントリー事業	3,000
	OMUTA BRIDGE	②	一人でも多くの子どもと繋がり対話する居場所づくり事業	1,000
	子ども食堂ネットワーク北九州	②	北九州・筑豊・京築地域子どもの居場所づくり広域連携事業	718
	子どもパートナーズHUGっこ	⑥	子どもの居場所「たまりんば」事業	1,000
佐賀県	ただいま	①	野外活動事業	193
	基山こどもねっと	①	親子と地域の大人と一緒に学び・成長する「無料の学習支援教室」事業	1,000
長崎県	おあしす	②	地域の方々の憩い場、居場所事業	1,000
	ながさき村	③	長崎の子どもたちの健やかな成長を持続的に支援するための基盤整備事業	1,000
熊本県	なんかん未来創造とっば隊	②	南関町の子どもたちの未来を地域の大人で支える人財育成事業	1,000
	あまりんぐ	③	もう要らないを必要な家庭に！衣類・育児用品のリユース事業	1,000
	シンママ熊本応援団	③	子どもの心の解放と笑顔を守るためのシングルマザー世帯への応援事業	1,000
宮崎県	LALASOCIAL	③	食を通じた子どもたちの健全な成長サポート(第3の居場所づくり)事業	3,000
	任意団体@pocket	③	こぼやしこども宅食・こどもとひとり親居場所事業	643
鹿児島県	親子ネットワークがじゅまるの家	②	こどもの居場所・アウトリーチ支援事業	2,938
	collage	①	沖永良部島の子どもたちの未来が輝くキャリアアップ支援事業	1,000
沖縄県	ゆいまーるひろば	⑥	子ども食堂・子どもの居場所支援事業	194

ご協力いただいた企業・団体

多くの企業や個人の方から、様々な方法でご協力いただきました。その一部をご紹介します。

■募金や寄付付き商品、寄付型自動販売機設置等によるご協力



(株)イトーヨーカ堂は、全店舗の会計レジに募金箱を設置(毎年3月～5月に実施)。「セブンマイルプログラム」を通じたWEB募金も実施。



すかいらーくグループは、ガスト、バーミヤン、ジオナサン等の全国の約2,700店舗で募金箱を設置。



(株)オランダ家は「ミッフィーサブレ」と「メラニーサブレ」の売上の一部を寄付。約40店舗に募金箱も設置。



横浜幸銀信用組合は、「こどもの未来応援基金」の寄付型自動販売機を設置。また、来店客にオリジナルラベルのミネラルウォーターを1本提供するごとに10円を「こどもの未来応援基金」に寄付。



(株)ハーバー研究所は、デリケートなこどもの肌を守る日やけ止め「UVキッズジェル」の売上の一部を寄付。路面直営店に募金箱も設置。

■ポイントプログラムや株主優待、不用品買取額等によるご協力



(株)NTTドコモは、「dポイントクラブ」に寄付メニューを設置してdポイントによる寄付を受付。



(株)大和証券グループ本社は、株主優待のWeb申込件数に応じた金額を寄付。



証券業界(日本証券業協会)は、株主優待を活用したSDGsを推進する施策として、「株主優待SDGs基金」を設置。支援先に当基金を指定し寄付。

また、日本証券業協会会員の店舗(約1,100店舗)に、(株)バリューブックスが古本買取査定額を寄付する「こどものみらい古本募金」の回収ボックスを設置。

ご寄付いただいた企業・団体

令和4年度も、多くの企業・団体からこどもの未来応援基金に対し、寄付金のご支援をいただきました。その一部をご紹介します。



株式会社カプコン



日本証券業協会



SDGs基金



株式会社すかいらーく
ホールディングス



株式会社NTTドコモ



株式会社大和証券グループ本社



株式会社フォレスト・ワン



株式会社北海道銀行



東亜合成株式会社



株式会社ラビロ



株式会社イトーヨーカ堂



サントリー食品
インターナショナル株式会社



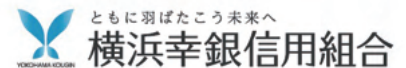
株式会社バリューブックス



JFEホールディングス株式会社



健康にアイデアを
明治ホールディングス株式会社



ともに羽ばたこう未来へ
横浜幸銀信用組合



株式会社オランダ家



一般社団法人
アズビル山武財団
Azbil Yamatake General Foundation



サンセイランディック
株式会社サンセイランディック



心・ふれあい
大東京信用組合



トランスコスモス株式会社



バイオから宇宙まで
日油株式会社



株式会社パロマ



未来に、技術と温もりを。
富士テレコム株式会社



株式会社渡辺商行



基金についてのお問合せ先

独立行政法人福祉医療機構
TEL:03-3438-0211

事業全般についてのお問合せ先

こども家庭庁支援局家庭福祉課
TEL:03-6859-0183

■ ホームページやFacebookで最新の活動について情報を発信しています。

こどもの未来応援国民運動 ホームページ

こどもの未来応援国民運動 Facebook

こどもの未来 応援

